



第150号 令和2年5月29日発行

総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。
スポーツ振興くじについてはこちらから

[日本スポーツ振興センターHP] <http://www.jpnsport.go.jp/>

スポーツクラブ  

スポーツ振興くじ助成事業

特別企画 安定的な財源の確保に取り組むクラブ



NPO法人南信州クラブ

NPO法人せいきコミュニティスポーツクラブ

緊急企画 みんなで乗り越えよう、我がクラブのコロナ対策



NPO法人Tap

NPO法人A-lifeなんかん



助成金情報 ▶▶▶ 詳細



お知らせ ▶▶▶ 詳細



バックナンバー ▶▶▶ 詳細



公益財団法人

日本スポーツ協会

特別企画

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人南信州クラブ 〈長野県飯田市〉

日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、独自の方法で安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。

1 クラブ概要

平成17年、地区内においてラグビーを普及・発展させるために、総合型地域スポーツクラブの考え方を取り入れ、西欧型スポーツクラブ化しようとの機運が醸成され始めました。

それには二つのきっかけがありました。一つ目は、ラグビーの競技人口が減り始めたこと。当地区（南信州地区）においても特に社会人においてそれが顕著に表れてきました。当時、人口10万人強の地区に三つの社会人チームがありましたが、そのうち一つが活動休止状態となりました。理由は、高校の部員減による卒業生の減少と、進学者の増加による地元就職者の減少でした。二つ目は、地区内ラグビー活動の組織が未整備だったことが挙げられます。何歳になってもラグビーをする場所とメンバーがそろう外国と異なり、当地区では社会人チームは同窓で同年代による構成が基本で、結成後10年を経ると身体的な衰えもあり競技継続ができなくなり、結果的にチームが衰退に向かうということが繰り返されてきていました。

折しも、現クラブマネジャー（筆者）が総合型地域スポーツクラブの創設・支援に関係する部署（県教育委員会）に異動。県内全体を管轄する傍ら、地元においてはラグビーを中心とした総合型地域スポーツクラブを創設し上記課題の解決を図ろうと動き始めました。



ラグビー人口減少を危惧→中学生にラグビーの場を提供

そこで、多世代のクラブをつくるために二つのことに取り組みました。一つは中学生への機会の保障により地域内ラグビーの縦軸を構築すること。二つ目はラグビー関係者全員が最低年に一度は集まる機会を設け、年齢に関係なく皆が地元のラグビー仲間だということを感じてもらおう機会をつくることです。

当時この地区は中学生が活動する場がありませんでした。小学生・高校生・社会人の活動は盛んでしたが、中学校に部活動がないことに加え、ラグビースクールは小学生の指導が主であり、子どもたちは中学に入学すると在籍校の運動部活動(ラグビー以外の種目)に所属することにより、高校入学時に再度ラグビーに戻ってくる子どもが減ってしまっていました。

具体的には、平成18年度から中学生ラグビー教室として月・水・金の週3日間活動し、土曜日は各スクールで取り組んでもらう機会を設けました。それは、在籍中学校において運動部活動に所属せずラグビーに専念できる環境をつくること、そして他県の部活動に劣らない機会を設けることで満足して取り組んでくれることを目指しました。それには本人・家族の理解、活動場所・コーチの確保が必要であり、本人と家族には小学校卒業時に説明会を開催。活動場所は市及び高校の施設。コーチは高校のラグビー部顧問と自営業のラグビースクール関係者に依頼しました。

ここで最も留意したのは、場所とコーチを高校関係にすることでした。中学生が常日頃高校で練習することにより、その高校を意識して進学につながられます。また、高校の顧問が教えることにより、中学3年間ではなく中高の6年間で成果を出す指導方針が可能となり、中学生をいわゆる燃えつき症候群にさせず高校につながるメリットもあります。二つ目は、フェスティバルの名のもと年に一度全員が集い、それぞれの年代によるゲームを実施することに加え、地元出身者が所属する大学や社会人チームを招待し、レベルの高いゲームを観戦する機会を設定することでした。

活動を開始した1年後の平成19年3月には、将来的に総合型地域スポーツクラブ設立を目指し、組織名を「南信州クラブ」としました。その名称には、南信州地区においてラグビーだけではないスポーツ活動を行うクラブであるとの意味合いが盛り込まれています。

ラグビー中心に地区のスポーツ振興を図る

上記活動に取り組んで数年が経ち、ラグビースクールの小学生もほぼ全員中学生ラグビー教室に参加、小中高の一貫指導体制も確立され、この地区において自他ともに認める多世代のラグビークラブが構築されてきた平成25年、ラグビー経験のある地元会社経営者よりNPO法人化して活動の幅を広げないかとの提案がありました。目指すところは、ラグビーを中心としたスポーツによる地域の活性化であり、具体的には活動拠点の構築、市町村や各団体との協力、スポーツによる誘客が含まれています。

とりわけ活動拠点の構築においては、「南信州クラブ方式」と名付けた、クラブ独自で考案した安価で実現できる方法(『3 独自の「南信州クラブ方式」で財源確保』の項で詳述)によりグラウンドを芝生化し、そこで日常的にラグビー活動を行うことが戦力アップにつながり、また他地区から来てくれるきっかけになると考えました。

折しもクラブ内においても総合型地域スポーツクラブ化するにも、きっかけがなく停滞感が漂っていた時期でした。1年間の話し合いの後、平成26年にNPO法人化するとともに、正式に総合型地域スポーツクラブとして新たに活動を開始することができました。その際の活動のコンセプトは「南信州スポーツバレー構想」です。ラグビーを中心として南信州地区のスポーツ振興を図ることにより、誇りと愛着を持てるスポーツのまち(谷)の形成を目指すとともに、「ラグビーの活動拠点構築」「地区内スポーツ活動すべての連携と団結」「スポーツ拠点づくりとスポーツコンベンション機能の充実」を目指して新たな活動を開始しました。

NPO法人化→市町村と委託契約、協力者の増

NPO法人化した目的は二つ。一つ目は、活動拠点構築に伴う市町村との連携には、契約締結においても法人化が必要であること。これにより、ある町のグラウンドを芝生化し管理業務として委託契約を結ぶことができました。二つ目は、法人化して新たな活動に取り組むことを大々的にPRすることで協力者を増やすことです。現在はラグビー以外に、小中学生向けのテニス教室、高齢者向けの健康体操教室、芝生グラウンドがある地区では小中学生のサッカーが加わっています。

2 会費以外に賛助会員制 芝生化による委託費も財源に

当クラブは小学生も含めたラグビープレイヤーが中心であり、プレイヤーも正会員です。プレイヤーは用具代・大会参加費等は個人持ちの上、会費以外の出費が多いため、年会費の設定を高くできない事情があります。年会費は小学生500円、中学生1,500円、高校生1,000円、社会人1,000円、40歳以上1,500円、女子1,000円としています。プレイヤー以外の正会員は約140名で、年会費は3,000円です。従って、財源捻出のため賛助会員制を設け、1口10,000円以上の賛助会費を納入してもらっています。年によって異なりますが、正会員・賛助会員を合わせた会費収入は年200~300万円です。

また、当クラブの他の収入としては、芝生化に伴う委託費、有料試合開催及びテニス教室開催に伴う事業収入があります。

<会員プレーヤーの構成>

【ラグビー】小学生160人、中学生55人、高校生65人、社会人55人、女子10人＝ 計345人

【テニス】小学生4人、中学生4人、高校生7人＝計15人

【サッカー】小学生25人、中学生18人＝計43人

【総計】小学生189人、中学生77人、高校生72人、社会人55人、女子10人＝合計403人

3 独自の「南信州クラブ方式」で財源確保

財源の確保のうち独自の取り組みとしては、実際に収入を得るものと、収入の代わりに物品を確保するものがあります。当クラブでは「南信州クラブ方式」により専用の芝生グラウンドを3面構築しました。方式は2種類あり、一つは通常の1/5～1/10の金額で施工できる方式。芝生を「べた張り」などのように全面に張らず、カットした芝それぞれを30～45cm離して張るため、結果的に芝生代が大幅に削減されます。さらに、早く芝を伸ばすために特殊な肥料を使用することで、普通の肥料と比べて倍以上のスピードで芝が伸びます。もう一つは、クラブがその後の管理を1/2程度の安価で請け負うことを提案し、市町村にはスポーツくじ助成を受けてもらう方式です。

このことを活用して3つの方法で財源を確保していくことができます。ここで一番大切なことは「安く」ということです。

① 2村6保育園の庭芝生化で委託費収入 ポイントは安価

一つ目は、当クラブが芝生化事業を受託し委託費として収入を得る方法。近隣市町村に対して「グリーンドラゴン化プロジェクト」と銘打った取り組みを当クラブとともに進めようと協力を募りました。それは、この地区を俯瞰する（ふかん＝高いところから見下ろす）とき、天龍川を胴として周りの芝生施設が手足や角等に見え、まるでそこには緑色の竜が横たわっているように見える地区にしようという取り組みです。どこに行っても芝生施設があり、子育てからスポーツまで幅広く活用でき、その魅力により多くの人に移り住んでもらおうとするものです。

芝生化は安価でないと広まりません。それには実際に見てもらわなければならないと考え、近隣の村の一つの保育園の園庭を当クラブの費用で芝生化しました。それを見てもらいながら経費を説明していたところ、視察に来た他の村から引き合いがあり、経費は村の予想していた約1/3の予算で実施できることを伝えたところ、一昨年度に当クラブが受託することとなりました。そして委託費の中に作業代も計上してもらうことでクラブの収入とすることができました。その作業代も安く抑えることに配慮しています。また、その年に視察に来た他村からも依頼があり、結果的に昨年度は2村6保育園の庭の芝生化作業を受託することができ、委託費は6園で約400万円でした。

② 芝生化された公営グラウンドの管理費も収入源

二つ目は、市町村のグラウンドを、その市町村に芝生化してもらい、管理費も予算計上してもらうやり方です。行政に対してはスポーツじ助成の活用を提案したことに加え、当クラブが行くと通常より管理費が安くなることを説明し理解を得て、ある町では平成26年に普段使われていないグラウンドを芝生化してくれました。専用の芝刈り機も町で購入してくれました。そして、当クラブが管理することにより、当クラブが利用できる約束も取り付けることができました。

通常より管理費を安く抑えられる要因は、一部専門業者に依頼する以外の管理を当クラブ員で行うことにあります。例えば、少年ラグビーのコーチが次の練習日を念頭に機械を使い芝刈り作業。これにより子どもたちに使用させたい芝の長さで刈ることができるメリットもあり、スプリンクラーの管理もコーチが行います。肥料散布は当クラブの施設開発部の担当者が当クラブの散布機を使用して実施し、除草剤・殺菌剤散布も当クラブ担当者が農業用散布機を用いて実施しています。砂入れや草刈りはグラウンドを利用する子どもたちの保護者です。結果的に当クラブで負担すべき管理費を町に出してもらっている形となっていて、管理費は約100万円です。

③ 芝刈り機は地元企業からの寄贈→支出抑制→財源確保と同結果

三つ目は、理念の理解による物品の拝受です。NPO法人化・総合型クラブ設立時に地元金融機関・企業・行政関係者を招待し設立総会及び祝賀会を開催しました。その後、翌年度の挨拶回りの折に地元の飯田信用金庫に対して芝生グラウンドの管理用に芝刈り機(約70万円)の寄贈を依頼。自前で調達すべき物品を寄贈してもらうことで支出を抑制でき、結果的に財源確保と同じ効果が生まれています。また、前述の賛助会費を、肥料・砂・設備等を納入する業者からも頂いております。



中学生(ラグビー)



豊丘南保育園

4

指定管理の受諾を視野 更なる行政との協働を

自前の財源確保方法があるとはいえ、いまだ財政基盤が確立していません。最低あと200万円程度は確保しないと事務員を有償雇用できません。

今後新たに取り組みたいことは、市町村営スポーツ施設の指定管理の受託です。そうすることで安定した財源づくりと当クラブ職員の有効活用につなげたいと考えております。折しも、ラグビーの大会や招待試合を開催する飯田市の競技場に一昨年度から指定管理制度が導入され、本年度で3年目、最後の1年間となります。更新時には当クラブも応募したいと考えているため、この1年間をかけてスタッフの確保及び事務処理能力の向上を図りたいです。

また、新たに芝生化に取り組む市町村の確保を含め、更なる行政との協働を図りながらクラブの理念実現を達成したいと思います。

(NPO法人南信州クラブ クラブマネジャー 小澤 健)

クラブ プロフィール

設立年月日 平成26年6月26日(総合型クラブとして)

所在地 長野県飯田市鼎

運営 会員数412名(令和2年3月現在)、予算規模830万円(令和元年度)

有給職員 1名

特徴 ラグビーを中心としたスポーツ活動により、県外・海外から人が集まる地域づくりに取り組んでいるクラブです。それにはまず活動拠点の構築が必要と考え、小学生から社会人までのラグビー活動が西欧のように芝生の上でできるようにと、芝生グラウンドの開発から取り組みました。また、ラグビーの一貫指導体制の確立と、多種目の共同による地域のスポーツ活動の活性化を目指して活動しています。

連絡先 〒395-0804 長野県飯田市鼎名古熊1987-5

TEL 090-3346-5155

URL <http://minamishinshuclub.org/>

E-Mail sportsrugby@mis.janis.or.jp

特別企画

安定的な財源の確保に取り組むクラブ

NPO法人せいきコミュニティースポーツクラブ 〈福井県勝山市〉

日本スポーツ協会が「総合型地域スポーツクラブ育成プラン2018」で掲げる総合型クラブの基本理念である「スポーツを核とした豊かな地域コミュニティの創造」を実現するためには、クラブの活動が地域に根差し、クラブが安定的に運営されることが必要です。安定的な運営のためには、受益者負担を基本に、最終的には自主独立の財務運営を目指す取り組みが求められます。

そこで今回は、独自の方法で安定的な財源の確保に向けた取り組みを行っているクラブを紹介します。

1 クラブ概要

福井県の北東、石川県との県境に位置する勝山市（人口約2万3000人、世帯数8000、平均年齢47・5歳）は、明治時代以来の地場産業である繊維産業を中心とした商工業と農林業が盛んです。一年を通して観光客で賑わう「県立恐竜博物館」、「国史跡平泉寺」や西日本最大級のスノーリゾートスキージャム勝山は、冬は純白のスノーワールド、夏はアクティブな高原リゾートとして一年を通して満喫できる人気施設を有しています。

我がクラブは、地域住民の主体的な運営により、生涯を通してスポーツに親しめる環境づくりを目指し、平成21年3月に勝山公民館管下に設立。以来“小さくてもキラリと光るせいきコミュニティースポーツクラブ”として、スポーツ・健康・文化にわたる多様な貢献内容と実践活動により、ソーシャルキャピタルで地域のつながりや人間関係の構築を通して人がクラブをつくり、クラブは人をつくる」を形成し、生涯スポーツの普及で、地域交流の場・居場所づくりや地域の絆を築くことで、「地域の活性化」と「社会保障費削減」といった、有形無形の社会貢献を目指す「オンリーワン」のクラブとして設立されました。

少子高齢化が進み医療費や介護費は年々増加していることから、抑制する解決策として運動やスポーツを子どもから高齢者に積極的に日常生活の中に取り入れ、将来に備えるという予防的観点から「生涯スポーツ」の普及が不可欠の時代を迎えています。



こうした背景から、現代のスポーツは、もはや単にスポーツそのものの振興だけを担えばいいという時代は終わりを告げ、今や様々な社会の課題解決の一翼を担う、極めて社会的な存在として進化しています。勝山地区においても、こうした問題を改善し、地域のスポーツ環境の充実を図るために有効な方策という観点から、地域コミュニティのプラットフォームとして、勝山公民館管下に設立するに至った次第です。

「設立時のキーパーソン」

各競技種目の全日本・国体等の大会に県代表選手とした活躍したアスリート、大学医療学系看護教授、県理学療法士会会長、管理栄養士、第43回福井国体の競技役員経験者、公認有資格者、県議会議員、前小中学校長、区長会長、商工会議所役員、ロータリクラブ役員ら15人

「クラブ理念」=【小さくてもキラリと光るせいきコミュニティスポーツクラブ】

「『新しい公共』の主体として、その役割である地域のスポーツ環境を形成する。クラブと地域が融合したスポーツ・健康・文化にわたる多様な活動を通じて世代間交流や地域コミュニティの発展につなげていく」

2 現在の活動状況

＜多世代・多種目対応事業＞

1. スポーツ教室開催

ノルディック・ウォーク教室/スティックリング教室/ボッチャ教室/スカイクロス教室/スポチャン教室/公式輪投げ教室/ラターゲッター教室/歩くスキー&スノーシュー教室/スポーツツーリズム体験/健康体操教室(高齢者・婦人・子ども・企業等の運動教室):卓球・バドミントンを筆頭に多種目対応スポーツ活動

2. 文化教室

美術学級(絵画・習字)・英会話講座・展示会の開催/小笠原流発祥の地:茶道体験・生花教室/繊維のまち:草木染め体験/栄養(料理)指導教室

3. 小・中学校部活支援

部活動への指導者派遣:ノルディックスキー指導(選手育成・強化)

4. 委託事業

ノルディック・ウォーク体験教室(いまスポクラブ、小松市・加賀市NW協会・上野子ども園、勝山公民館、遅羽公民館、勝山地区社会福祉協議会等)

5. 委託イベント(毎年恒例事業)

福井県民スポーツ祭NW交流会/ふくい健康長寿祭/県ニュースポーツ普及・拡大事業/県高次脳機能障害支援事業(ボッチャ・スティックリング・輪投げ・ラターゲッター等)

6. 活動拠点・活用施設

勝山市民交流センター多種目大ホール/市内各公民館ホール等/事業受託先施設

3

会費等の自主財源が希薄→ クラウドファンディング(CF)を活用

当クラブは、ボランティアによる自主運営のため、会員の会費・寄付金を主要財源とした財務計画になっており、運営費捻出手段としては、以下の2点になります。

- ① 出前指導事業所(公民館、幼稚園、小中学校、各種団体、SC)
- ② 行政等(県教委スポーツ課、県スポーツ協会、しあわせ福井スポーツ協会、県社会福祉協議会、県共同募金会等々)

上記からの事業委託により財源を確保しており、他力本願の財源構成になっている次第です。

- ◆ 出前指導・教室、受託事業に関しては、各専門部に再委託している関係で、それぞれの単独会計にて処理をしています。

出前指導・教室などの事業受託だけでは、安定した自己財源の確保につながらないため、クラウドファンディング(CF)の導入に至りました。CFを通じたクラブの認知度向上により市内外の各種機関から事業受託が増加し、財源確保につながっています。自主財源確保手法には、CFの活用が最適だと思います。

4

募金モデル事業としてノルディックウォーク（NW）イベントを企画、CFで展開

◆経緯

福井県共同募金会から「募金アイデアモデル事業」の協力依頼を受け、募金モデル事業団体に認定されました。「自分のまちから不幸な孤独をなくす」活動を行う福祉団体を応援するために、クラウドファンディングを活用。募金の協力に共感・共鳴の意識を得られる仕組みを取り入れた「健康づくりと観光ツアーソーシャルノルディック・ウォーク(NW)歩いて勝山を元気にするチャリティイベント」を企画・実施しました。

◆「ミラカナ」の概要

福井新聞社、レディーフォー(Readyfor)、福井銀行が連携するクラウドファンディング。福井県内のプロジェクト実行者から参加申し込みを受け付け後、プロジェクト内容を精査して提携先のレディーフォーと情報を共有。準備が整い次第、ミラカナ、レディーフォーの特設ホームページにおいてプロジェクトを公開、一定期間を経て目標額が集まった場合のみ実行者に資金を提供する「オールオアナッシング方式」(一部例外あり)で全国から広く支援を募っている。

◆経過

【2018年】

11月 福井県共同募金会に提案 その後、モデル事業決定
12月 レディーフォーへプロジェクトの要望 「ミラカナ」経由

【2019年】

1月 7日 福井県共同募金会・「ミラカナ」合同打ち合わせ
9日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
12日 レディーフォーインターネット打ち合わせ(イベント原稿作成)
15日 イベント原稿作成・送付
16日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
18日 イベントチラシ作成1,000枚
19日 福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ
22日 福井新聞イベント掲載・CF決定通知
29日 イベントチラシ配布 1,000枚
2月 2日 イベント案内状発送300通(募集金額:300,000円=一口3,000円~)
23・24日 勝山左義長祭りツアー(プレイベント各日60人参加)
3月 1日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」・福井新聞ホームページでCFスタート
募集開始(3/1~3/29:1ヶ月間)
3日 関係機関・関係者案内状送付
15日 福井県共同募金会・「ミラカナ」打ち合わせ(中間募集状況把握)
29日 募集締め切り レディーフォー・「ミラカナ」305,000円到達
4月 3日 レディーフォー・福井県共同募金会・「ミラカナ」目標達成報告
5日 寄付者(25名)・関係機関に礼状発送
28日 勝山ジオパークをノルディック・ウォークで巡るイベント実施
(パステル画展鑑賞・体験、アスリート弁当、バルーンアート、「石」文化認定国史跡平泉寺、越前大仏スポーツツーリズム)3庁連携事業
29日 参加者、寄付者、関係機関に事業実施終了の礼状・返礼品発送
5月 3日 レディーフォーに事業実施報告書提出
10日 募金入金(銀行振込)

◆返礼品の内容

1万円以上＝ノルディック・ウォーク専用ポール1組、当クラブNWイベント無料招待券1枚、記念スポーツタオル1枚、クラブ特製アスリート弁当(1,200円相当郷土料理)1人前

5千円～1万円＝当クラブNWイベント招待券1枚、記念スポーツタオル1枚、アスリート特製弁当1人前

3千円～5千円＝記念スポーツタオル1枚、NW記念缶バッジ1個

◆苦勞した点:

初体験のため、メール交換・テレビ会議といった手法が不慣れのため苦勞しました。それに、目標の資金調達法が銀行振込やクレジットカード決済方式なので、高齢者の方はその手法が不慣れのため、お伝えすることが大変でした。

◆良かった点:

- ① 短期間の資金調達でしたので、「ミラカナ」と県共同募金会を相談者として指導・協力を願い、取り組んだことで早く目標金額調達ができたと思います。
- ② 我がクラブは、日頃連携して活動をしている団体・関係者からの協力を得て取り組んだことが成功に導いてくれたと思います。クラブの自主財源確保には、最適の資金調達法だと思います。

◆工夫した点:

我がクラブが、社会的課題を解決するために、支援者から「共鳴」「共感」を得ることができる内容を企画しました。

◆成果:

CF活用宣伝効果によってファン(会員)獲得と活動資金調達にもつながりました。併せて、ノルディック・ウォーク事業が持続可能な開発目標につながる総合型地域スポーツクラブの事業として取り組むことができていることも、大きな成果だと感謝をしています。



5

CFの成功で委託事業の依頼が増加

◆ 出前教室・指導事業

CFを活用したノルディックウォークイベントでは、出前先の協力・支援を活用しているため、経費の支出や会場の準備、参加者等の募集の手間を省いて活動ができ、作業がスムーズに行えました。出前先の活性化にもつながり、出前先から好評を得られました。

◆ 受託事業

財源が無いことへの対策として、県の行政や関係団体に事業委託の要請をしてきた結果、かなりの反響を得て相互がWIN=WIN で好成果を収めることができ、次につなげることができました。

※何事も信頼・信用の社会において、クラブがNPO法人であり、クラウドファンディングの成功が功を奏し、「地域のcommons」と非営利組織として認知されたことで、委託事業の依頼が増加傾向になりました。

● 寄付金収入は、主に生涯スポーツ普及による健康を目的とするのみではなく、社会の課題解決も目的に加えた「ソーシャル・グループ・ワーク」を提唱し、“地域社会の役に立ちたい”というプロジェクトを立ち上げ、プラットフォームのサイトを通じて「地域社会の支えになる」といったことに共感・共鳴いただいた多くの人から寄付を集めて、一部は共同募金をし、残金は活動資金に充当して健全運営に現在も役立っています。

6

5財源からバランスよく資金調達 背景に地域住民からの信頼

クラブの理念「小さくもキラリと光るせいきコミュニティスポーツクラブ」として、「地域のクラブ」「地域のcommons」を外部に明確に提示し、地域住民に信頼される組織として活動に取り組み、五つの複数の財源からバランスよく資金調達して、自主財源を充実させ、財政基盤を確立した上で、さらなる成長を目指して外部の資金調達に挑戦します。

◆ 資金調達の5財源

①会費 ②寄付金 ③スポーツイベント収入 ④補助・助成金 ⑤受託金

7 行政等と連携し、未来志向型の「地域の commons」を目指す

クラブの運営・参画・役割に対する施策のさらなる見直しなど、行政がスポーツ推進に取り組む上での課題解決が必要になってくると考えます。

本年度は、スポーツを通して築いた「人と人とのつながり」や「助け合いの関係」を地域の身近な日常生活で生み出す総合型地域スポーツクラブとしての役割が、当クラブに期待されていることから、行政等と多様なパートナーシップを構築し、未来志向型の「地域のクラブ・地域の commons」を目指す所存です。

(NPO法人せいきコミュニティースポーツクラブ 理事長 四谷 憲夫)



恐竜公園内：君原健二選手ロードコースNW状況



勝山市ジオパーク事業(七里壁)：NWで高札巡り



上野子ども園NW教室ボールストレッチ



アスリート弁当で交流会状況

クラブプロフィール

設立年月日 平成21年3月28日

所在地 福井県勝山市片瀬1-402

運営 会員数246名(令和2年2月現在)、予算規模80万円(令和1年度)

有給職員 0名

特徴 我がクラブは、地域住民(会員・支援者)の主体的な運営により、スポーツによる絆づくり、コミュニティーの創生によって、子ども、高齢者、障がい者、外国人など幅広い世代の人々がスポーツを通じて「共生」しながら、生涯を通してスポーツに親しめる明るく元気な社会づくり、そして健康長寿・健幸華齢な“まちづくり”を、ボランティア活動で実現できるよう実践活動をしている非営利組織で、「オンリーワンクラブ」を目指しています。

連絡先 〒911-0811 福井県勝山市片瀬1-402
TEL 0779-88-8220 FAX 0779-87-1022
E-Mail seiki_9315@yahoo.co.jp

緊急企画

みんなで乗り越えよう、
我がクラブのコロナ対策

NPO法人Tap ＜新潟県津南町＞

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、今回は、NPO法人Tapの新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを紹介いたします。

1 現在のクラブ状況

4月から全世代の活動休止 事務局は試験的にテレワーク

Tapは新潟県の中でも豪雪地である津南町(人口9,300人)を拠点に「つながり」を大切にした活動を展開しています。各種教室やイベントの開催、行政からの社会体育事業や健康づくり事業の受託、町健康増進施設の指定管理も担っています。

新型コロナウイルス感染症の影響で3月から子どもたちと高齢者を対象にした事業が休止となり、4月から現在(5月)までは町内にある施設の休止に伴い全世代の活動が休止となっています。再開のめどは未だ立っていない状況です。

事務局機能にも変化があり、4月下旬からは緊急事態宣言が全国に拡大したことにより、ローテーション勤務の実施や今後を見据えて試験的にテレワークにも取り組んでいます。



「今できることをまずやる！やることで気づきがある！」

新型コロナウイルスは今までできていた生活に制限がかかり、子どもたちは学校に行けないことで友だちに会えず、思い切り遊ぶこともできていません。また高齢者は健康づくりのために参加していた教室等が休止となり、運動ができず生活範囲も狭まっています。どの世代でも心身への影響があり、Tapとして何ができるのかを考え、対策に取り組んでいます。

■高齢者には自宅対応のチラシを配布

高齢者の生活の質を維持するためTapから行政へ提案し、自宅のできる軽度な体操や脳刺激などをまとめたチラシを作成し、指導者が参加者へ届け、合わせて様子を見に行きました。休止が長引くことで、現在までに3回チラシを発行しています。4月には手渡しも自粛することになり、郵送への切り替え等やることが限られましたが、その後は参加者へ電話連絡を実施しました。

■子どもには「けん玉」を寄贈 SNSで動画も配信

自宅でも挑戦できるよう、教室参加の子どもたちに「けん玉」を贈りました。計42個を寄贈しましたが、その費用は子ども事業の参加料収入から捻出しました。また、SNSで遊びの動画を配信したり、町広報紙で昔遊びの紹介や学校を通じて親子遊びのチラシを配布したりしました。

●実施後の対象者反響

高齢者は「励みになる」 子どもたちからは喜びの声も

高齢者には、実施した運動を記録できるように自作のカレンダーをチラシと一緒に配布しました。参加者からは、「チラシを目にすることで、やろうという気持ちが芽生える」「カレンダーがあると記録ができて、励みになる」「脳刺激を夫婦で取り組み、会話が增えた」などの声が届いています。一方で、「以前より膝や腰が痛くなった」「出かける機会が減って、話すことも少なくなった」など心身に影響が出ている方もいます。

子どもたちは「家でけん玉にチャレンジして、できるようになった」「動画を自宅で見ながら画面に映るスタッフと遊んだ」との喜びの声が聞かれます。

●実施後の事務局側の声

参加者の心身の不安を痛感 日々変わる感染状況に対応変更迫られる

「参加者のためにできることをやろう」という気持ちが芽生え、十分とは言えませんが少しでも運動等に取り組んでもらえるような対応をしています。ただ、各教室が休止していることで参加者の運動機能や心の健康状態が低下していることも痛感しています。

また、新型コロナウイルス対策は日々状況が変わるため、昨日まで進めていたことが今日になって方向転換することもあり、対応を変えなければならない大変さがあります。他にも、指導者への報酬支払いが減少(クラブ側からの補てん無し)する事業もあり、教室再開時にスムーズに運営ができるのかという不安を抱えています。

3 事業再開に向けガイドライン作成へ

手軽なウォーキングを採用へ 子どもにはスタッフが「遊び」を提案予定

スポーツや健康づくり事業は集団での活動が多い中、活動が制限されてしまいますが、感染症対策を徹底しながら各種事業が再開できるようにガイドラインを作成する予定です。

また、少人数でのウォーキングは可能であるため、自宅付近で手軽に歩けるように集落単位で住民と一緒にウォーキングコースの新設を目指します。併せてポールウォーキングを推奨することで安全に健康づくりに取り組んでもらえるようなきっかけをつくり、将来的には新しいウォーキング事業を展開することも視野に入れていきます。

子どもたちの活動もすぐに再開できないことが予想されます。学校の昼休みにTapスタッフが遊びの提案をして、自宅でも親子でできるようなきっかけづくりに取り組みます。

(NPO法人Tap 事務局長兼マネジャー 江村 大輔)

クラブプロフィール

設立年月日 平成25年2月28日(同年3月26日NPO法人登記)

所在地 新潟県津南町

特徴 「つながりで人づくりとまちづくり、健康づくりに取り組みます」を理念に、人と人とのつながりを大切にして、子どもから高齢者までの全世代が心身ともに豊かに生活できるような取り組みをしています。名前の由来は、Tsunan all people(津南でつながるすべての人)の頭文字と「何かあれば協力するよ」と肩をたたく(タップする)という意味が込められています。雪を活用した「豪雪地面出し競争」など、地域の魅力を発信する活動もしています。

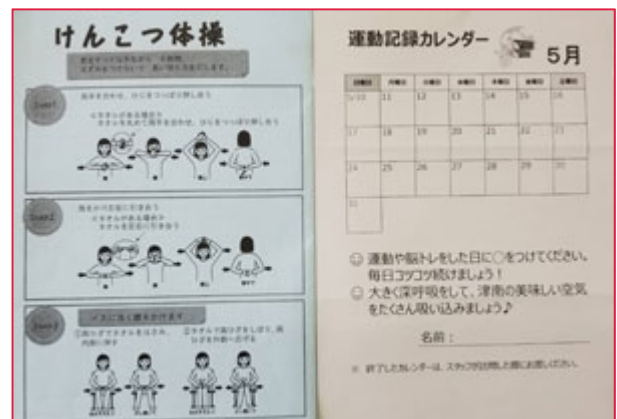
連絡先 〒949-8201 新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡丁1633番地1
 TEL 025-765-5776 FAX 025-765-3596
 URL <https://www.facebook.com/npotap5776/> (Facebook)
 E-Mail tap@poplar.ocn.ne.jp



住民といっしょに集落単位でウォーキングコースの新設を目指している。今できることを実践する毎日である。



学校を通じて小学生向けに自宅でできるあそびを提案。(「スポーツの得意な子に育つ親子遊び」より引用)



高齢者向け事業参加者へのチラシ。自宅できるように体操の紹介と運動記録カレンダーを配布して運動習慣の継続を促している。

緊急企画

みんなで乗り越えよう、
我がクラブのコロナ対策

NPO法人A-lifeなんかん ＜熊本県南関町＞

世界中で甚大な被害をもたらしている新型コロナウイルス感染症による影響は計り知れません。クラブが受ける影響も大きく、各クラブで試行錯誤している状況にあります。少しでも全国のクラブの力となるよう、今回は、NPO法人A-lifeなんかんの新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを紹介いたします。

1 現在のクラブ状況

事務局が元気であることをアピール

2月下旬から自治体内で感染拡大防止のための措置が始まり、それに伴い委託を受けている事業（介護予防関連事業・社会体育移行事業・子育て支援イベント関連）や町内外の保育園への体育指導者派遣も徐々に中止へと向かいました。スポーツクラブ事業では現在全ての種目活動を中止している状況です。ちょうど会員の年度更新時期と重なり、入会・更新数は例年同時期と比べて1/2（約200人）と伸び悩んでいます（5/8現在）。

事務局は稼働 予防対策講じ一部事業を実施

そんな中、事務局はほぼ通常通り出勤。予防対策をしながらできる事業は実施し、事務所内ではこれまで疎かになっていたデータ整理や業務改善に取り組んだり、新年度事業への準備をしたりしています。スタッフが遠くからでも住民に元気に声かけられるよう心がけています。



2

コロナ対策

スピード感を持って、できることに取り組む

会員向けに「健康チェック表」を配布し検温の習慣化への取り組み <4月上旬から配布>
教室再開時には施設受付での検温等のチェックが課されるため、入会更新手続き時に健康
チェック表を配布し毎日の検温を促しています。 * HPからダウンロード可 *

コロナウイルス対策チラシを全戸配布 <4月15日 行政配布便を活用>

町地域包括支援センターとの連携によりA-lifeで作成し、町内全戸配布と併せて一部企業にも
社員用として提供。金融機関にも設置を依頼しました。

同チラシでは毎日の生活リズムを整え抵抗力を下げないように、自宅でできる運動等を紹介。QR
コードから同じ運動の動画も視聴できます。この運動は介護予防事業として南関町全域で展
開しているもので、社会体育移行事業等でも準備運動として実施中。介護予防運動教室参加
者などに対し休止中も自宅での継続を呼びかけ、フレイル(身体的機能や認知機能の低下)予
防も目的にしています。

あえて紙媒体とした理由は、ネット配信のみではITに明るくない方や環境が整っていない子ども
たちの情報源に限られるため、このような時こそ地域に貢献すべきとの思いから実施しまし
た。

●実施後の対象者反響

一般会員から好評—「健康チェック表」配布

児童生徒は学校から検温が課されているものの、それ以外の世代は個人での管理はそこま
で進んでいなかった様子。一般会員からは「これは大事ですよ」と声をいただくこともあり、一
時期教室が再開できた際にも施設受付がスムーズに進みました。

好反響で地元紙が掲載 他自治体にも情報提供—対策チラシ配布

これまでの介護予防運動等の実施者以外の世代(企業を含め)からも、チラシを見て実際に
やってみたとの反響をいただきました。後日この取り組みが地元紙に掲載されたことから、他自
治体の個人からも問い合わせがあり、チラシをお送りしました。また、他県の団体にも情報を提
供しました。

●実施後の事務局側の声

指導者側にも意識付けの効果—「健康チェック表」配布

3月下旬からスタッフと外部インストラクターに毎日の検温を課したのがきっかけで、教室の地域指導者に対しても健康管理の意識付けが進み、事務局から会員に対して積極的に取り組み始めた後も、参加者管理の負担軽減につながりました。

行政側から高い評価と感謝—対策チラシ配布

作成・配布とその費用負担の全てをA-lifeが担う前提で行政側に相談したところ、このような啓発の実施が急務であるものの、担当部署の対応が追いつかない状況であったことから、このような提案と即時の対応力に高い評価と感謝の声を頂き、信頼関係を築いています。

3 活動再開のタイミングは指導者の判断

スポーツクラブ事業ではほとんどの教室(種目活動)が公共体育施設で開催していることから、自治体の施設開放状況に合わせてその都度教室開催の基本スケジュールを事務局で検討し指導者に連絡。教室によって会員の年齢構成などが異なることから、実際の活動再開のタイミングは指導者に判断してもらっています。特に小中学生がメインの教室では学校や部活動の再開との兼ね合いを自治体から要請されているため、より密なコミュニケーションを心がけます。

再活用した事務局LINE(無料通信アプリケーション) 今後も展開を検討

この教室休止期間中に連絡手段として事務局LINEの再活用に取り組み、会員側としても必要性から積極的に登録が進んでいる状況で、一層の活用展開を検討しています。

法人格の有無で違いも—政府の資金対策活用

全体の運営資金としては、政府から出された対策を可能な限り活用するため複数の手続きを進めています。法人格の有無によって対応に違いがあるものもあり、ここにきて法人格の価値を感じているところです。

コロナ禍を契機に運営方法を前向きに見直し

今回のコロナウイルスによってクラブは思わぬ状況に陥っていますが、それぞれの事業の運営方法をリノベーションする機会と思い、今は前向きに事業を進めるために汗をかいています。

(NPO法人A-lifeなんかん 事務局長 西田 由実)

クラブプロフィール

設立年月日 平成17年1月23日(平成24年7月25日NPO法人登記)

所在地 熊本県玉名郡南関町

- 特徴**
- ・総合型地域スポーツクラブと町体育協会が対等合併してできた組織。
 - ・教育部局だけでなく福祉部局の委託事業も行っている。
 - ・クラブの理念に基づき、スタッフの新規事業提案や開拓、働き方など柔軟に対応している。
 - ・他団体からの協力・協働要請にできるだけ応える。その際、お互い無料ではなく適正価格で実施し、価値化に努めている。
 - ・事務所が賃貸の空き店舗。商店街の中にある。

連絡先 〒861-0803 熊本県玉名郡南関町大字関町1283番地
 TEL 0968-57-9616 FAX 0968-57-9617
 URL <http://a-life-npo.com>
 E-Mail info@a-life-npo.com



コロナウイルス対策チラシ(運動紹介面)。右上のQRコードから動画の視聴できる。裏面は感染症対策情報を掲載。



会員登録時は、年に一度、皆さんのお声を直に伺える機会です。左上は会員証と健康チェック表。



配信したLINEメッセージ 堅苦しくならないように注意。



助成金情報

エネルギー文化・スポーツ財団令和2年度 後期募集助成金情報

【実施団体】（公財）エネルギー文化・スポーツ財団

中国地域に所在する文化、スポーツに関する団体が主催し、中国地域在住者が過半数を占める活動で、中国地域内において行う活動を対象とします。

【申込期間】令和2年5月1日（金）から6月20日（土）（当日消印有効）

申込書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留にて郵送します。

<http://www.gr.energia.co.jp/bunspo/application/cat1.html>

2020年度 ヨネックススポーツ振興財団助成事業（後期）

【実施団体】（公財）ヨネックススポーツ振興財団

青少年スポーツの振興に関する事業を積極的にを行い、奨励し、または自ら行い、かつその活動を3年以上継続して実施し、交付対象の要件を満たしている団体を助成します。

【申込期間】2020年6月20日 ※当日消印有効

交付申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、対象団体であることを証明する書類を添付して、郵送で申請します。

<http://www.yonexsports-f.or.jp/joseikin.html>

令和2年度 子どもゆめ基金助成金〈二次募集〉

【実施団体】（独）国立青少年教育振興機構

子どもの健全な育成を図ることを目的に、令和2年10月1日から令和3年3月31日までの間に行われる子どもの各種体験活動に対する助成を行います。

【申込期間】 郵送による申請／令和2年5月1日～6月16日

電子申請／令和2年5月1日～6月30日

郵送や宅配便の場合は、申請書をダウンロードし必要事項を記入のうえ、簡易書留など配達記録の残るものを利用します。封筒には「申請書在中」と記入します。

<https://yumekikin.niye.go.jp/iyosei/index.html>





お知らせ

日本スポーツ協会情報

スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドラインについて

当協会は、公益財団法人日本障がい者スポーツ協会と連携し、スポーツ庁からの助言を得て、標記ガイドラインを作成しました。

なお、スポーツイベントの開催に際しては、開催地の都道府県の方針に従うことが大前提となります。スポーツイベントの主催者におかれましては、開催や実施の判断に迷われた際は、開催地や施設が所在する都道府県のスポーツ主管課や衛生部局等へのご相談をお願いします。

<スポーツイベント再開に向けた感染拡大予防ガイドライン>

<https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideline2.pdf>

<スポーツイベント開催・実施時の感染防止策チェックリスト>

https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/jspo/guideine_checklist2.pdf

スポーツ庁「2019年度スポーツ活動支援事業(総合型クラブの質的充実に向けた支援推進事業)」報告書の掲載

当協会では、2019年度にスポーツ庁より標記委託事業を受託し実施しました。

当該事業の報告書が、スポーツ庁ホームページにおいて公表されましたのでお知らせします。

中間支援組織の整備に向け制度モデル案を作成し、試行・検証を行いました。

<スポーツ庁ホームページの報告書掲載ページ>

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop05/list/detail/jsa_00011.html

熱中症対策情報

これから暑い日が続きます。これまでの新型コロナウイルス感染症対策とあわせて、熱中症予防対策が必要となります。特に、これまでの外出自粛の影響により、体力の低下や暑さに慣れていないこと、そして、マスクをつけてスポーツを行うと熱放散が妨げられることから、通常よりも熱中症のリスクが高くなりますので、より注意が必要となります。熱中症対策をしましょう！

<スポーツ活動再開時の新型コロナウイルス感染症対策と熱中症予防について>

<https://www.japan-sports.or.jp/news/tabid92.html?itemid=4164>

<スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック等についてはこちら>

<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html>



スポーツ庁情報

政府全体または文部科学省・スポーツ庁による、スポーツ団体・個人向けの支援施策の概要・相談窓口について紹介しています。

<新型コロナウイルス経済対策 お問合せ一覧>

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/detail/jsa_00008.html

独立行政法人日本スポーツ振興センターよりお知らせ

デュアルキャリア啓発用リーフレット「デュアルキャリアのススメ」

アスリートは人としての人生を歩みながらアスリートとしての人生を同時に送っており、このようにキャリアに二重性がある状態を「デュアルキャリア」と言います。

この度、独立行政法人日本スポーツ振興センターが、令和元年度スポーツ庁委託事業「スポーツキャリアサポート推進戦略」において、ジュニア・ユース年代の指導者や保護者を対象にデュアルキャリアの啓発を促進するためのリーフレットを作成しました。

ぜひご活用ください。

<ダウンロードはこちら>

<https://pathway.jpnsport.go.jp/lifestyle/column.html>

「スポーツ担当者になったら読む本～地方行政におけるエビデンスベースの政策立案に取り組むために～」の発刊

地方自治体で新たにスポーツ担当部局に着任された行政職員をはじめ、地域のスポーツ政策に携わる方々に向けて編集された書籍です。

オンデマンド出版ですので、以下よりお買い求めください。

<購入についてはこちらから>

https://honto.jp/netstore/pd-book_30307797.html